

ようこそ 酒々井町へ



中川の景 三代目広重画

／応永14年(1407)香取神宮文書の中に「須々井」とあり／
～徳川家康の町立てから419年、千葉氏の開府から500有余年の歴史ある町です～



酒々井町長

小坂 泰久
YASUHISA KOSAKA

ごあいさつ

酒々井町は、千葉県北部、北総台地に位置し、都心から50キロメートル圏内であって、緑豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれています。歴史的には、約3万年前の旧石器時代の遺跡や全国でもまれな「奈良二彩」（奈良時代）が出土し、千年前の印東庄の景観が残り、中世戦国時代には、下総の国を統治した千葉氏が本佐倉城（国史跡）を築城して、約100年にわたり、政治、経済の中心として栄えました。天正19（1591）年徳川家康により「酒々井町」の町立てが行われました。江戸時代には、佐倉城下、幕府の野馬役所、成田・芝山参詣への宿場町としてにぎわいました。そして明治22年、町村制施行により近隣16か町村が合併して新生「酒々井町」が誕生しました。

以来、着実な歩みを続け、昭和50年代には、大規模な住宅開発に伴う急激な人口増加により、それまでの農業中心の町から、都市機能を備えた住宅都市へと変貌し、人口2万人を超える町へと発展しました。

現在、急速に進む少子高齢化等により社会構造が大きく変わろうとしている現状にあるなかで、町の歴史的な文化遺産や恵まれた自然環境を活かして、人々の交流を通じて、支え合い・助け合えるまちづくりを進め、子どもから高齢者まですべての人たちがいきいき安心して暮らせるクオリティの高いまち「コンパクトシティ酒々井」を目指して取り組んでいます。

このたび、酒々井町独自の取り組みを全国自治体の皆様にご紹介するため「ようこそ酒々井町へ」を発行いたしました。

私は、同じ自治体運営に携わる皆様と情報を相互に交換し、共有することにより、更に「その地域独自のまちづくり」が推進されていくものと思っています。どうぞ、酒々井町の取り組みの一部を本書でご覧いただき、ご参考になれば幸いです。

平成22年9月



ふじき野の町並み

CONTENTS

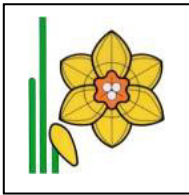
- ◆健康でいきいきと暮らせるまちづくり …… 1
 - ・健康なまち・しやすい
 - ・いきいき暮らせるまち・しやすい
- ◆地域の特性を活かした活力あるまちづくり …… 3
 - ・活力にあふれるまち
 - ・活気にあふれるまち
 - ・活力と活気にあふれるまち
- ◆コンパクトシティならではの住みよい環境のまちづくり …… 5
 - ・住民との協働の取り組み
 - ・地球と家計にやさしい生活を
 - ・きれいな印旛沼を再び
- ◆安全で安心なまちづくり …… 7
 - ・安全で暮らしやすい生活を
 - ・安心して暮らせる生活を
- ◆酒々井に学び酒々井に育つ …… 9
 - ・「連携」と「交流」を深め地域の教育力の向上をめざします
 - ・子どもたちの健やかな成長のために環境の整備充実を図ります
 - ・誰もが生きがいを感じ生涯学習に取り組める環境づくりに努めます
 - ・スポーツと文化活動を通じて心と体の健康づくり・地域文化の創造を図ります
- ◆時の玉手箱 …… 11
- ◆酒々井宿の事 …… 13



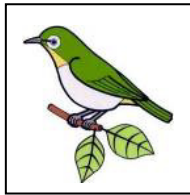
春の総合公園



町の木(梅)



町の花(水仙)



町の鳥(メジロ)



役場庁舎



トータル・エンブレム

《酒々井町の概要》

総面積/19.02 km²

人口/21,329人(住民基本台帳・平成22年4月1日現在)

人口密度/1,121人(1km²当たり)

世帯数/8,935世帯(住民基本台帳・平成22年4月1日現在)

予算規模/51億4,029万3千円(平成22年度当初予算)

職員数/186人(平成22年4月1日現在)

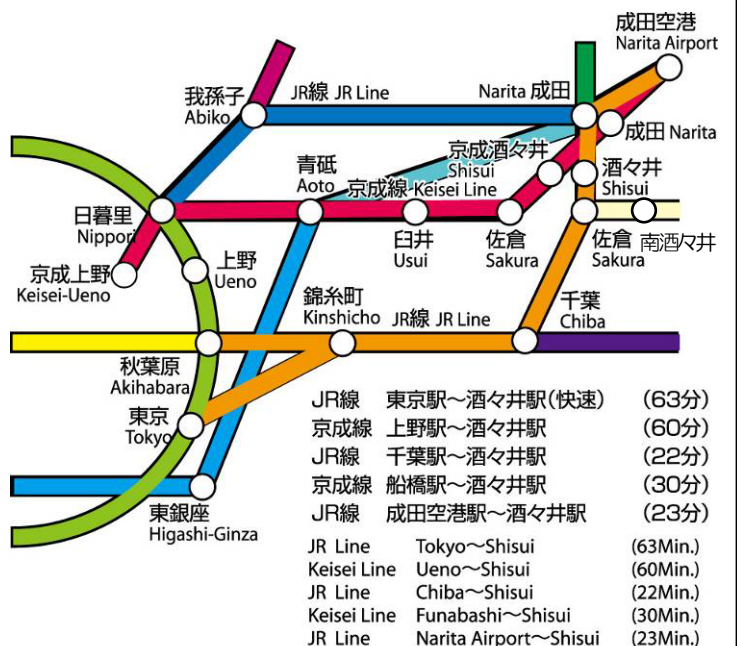
上水道普及率/93% 下水道普及率/91%

特徴/酒々井町は、千葉県北部の北総台地に位置し、都心から50kmの圏内にあって、北西部には印旛沼、東南部には北総台地を配し、緑豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれています。

町の特徴は、交通体系が充実しているということがあげられます。成田国際空港の10km圏内に位置し、鉄道は、3線4駅(JR酒々井駅(成田線)、JR南酒々井駅(総武本線)、京成酒々井駅、京成宗吾参道駅)があり、道路も国道51号、296号が交差しているほか、県道が3路線、さらに東関東自動車道が町南部地域を通過しており、酒々井ICの設置が決定され事業が進められています。

酒々井町は、これらの交通網により、県東部、千葉市、東京方面へのアクセスが大変便利な位置にあります。

交通図



東関東自動車道 佐倉IC～役場(10分)距離5km
Higashikanto highway Sakura I.C～Shisui Town Hall (10Min.) 5km.

健康でいきいきと暮らせるまちづくり

健康なまち・しすい

～健康創造都市宣言・健康ビジョン～

町では、「健康創造」をまちづくりとして宣言しています。健康創造都市を実現するため、「健康をまもり・つくる」ことの意識を日常生活の中で育み、健康づくりの和を町全体に広げていくため、ヘルスプロモーションの考え方を取り入れ、健康ビジョンを計画的に進めています。

健康づくり

—いきいきしすいっ子教室—

小児生活習慣病予防健診を主体とし、子どもと保護者への健康教育として、子どもの時からの生活習慣病の予防に取り組んでいます。



健康づくり

—スマイルヘルシー教室—

順天堂大学と連携してウォーキングや各種の軽スポーツを取り入れた運動教室を開催し、住民参加の健康なまちづくりを進めています。



介護予防

—チャレンジ教室—

全ての高齢者を対象に、介護予防に関する普及啓発、人材育成、地域活動組織の育成、支援を行っています。自治会の協力により、各地区に出向いたチャレンジ教室も開催しています。



食育の推進

—酒々井オリジナル食育絵本を活用—

各家庭教育学級と連携して食育講習会を開催するとともに、3歳児健康診査の栄養相談において、酒々井オリジナルの親子で読む食育絵本「おいしいね」を活用した指導を行い、普及啓発を行っています。



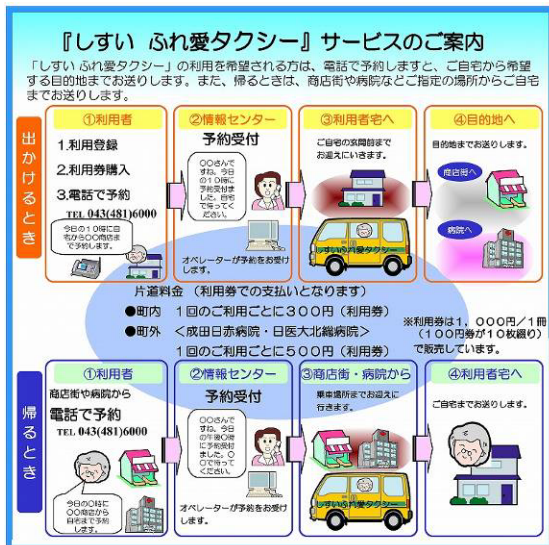
いきいき暮らせるまち・しすい
～いきいきと生活できる福祉社会づくり～

町では、「酒々井に住んでよかった」と思えるまちづくりを進めることを目指して、高齢者などが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境づくりを進めています。

誰もが外出しやすい環境

—しすい ふれ愛タクシー—

高齢者などが外出しやすい環境整備を図るため、デマンド交通システムを採用した乗合タクシー方式により、自宅から目的地までの送迎サービスを行っています。町内全域及び日本医科大学北総病院（印西市）、成田赤十字病院（成田市）などを運航区域にしています。



在宅生活を支援
—ネットワークづくり—

高齢者や障害者などの要支援者の在宅生活を支援するため、地域包括支援センターなどの関係機関が中心となって、地域全体で支援のためのネットワークづくりを進めるとともに、様々な悩みや相談に適切に対応しています。

—緊急通報装置貸与事業—

緊急時に連絡する人がいないひとり暮らし高齢者（概ね65歳以上）に緊急通報装置を貸与し、24時間いつでも見守りを行います。



高齢者セーフティネット

—見守り事業—

行政、地域包括支援センター、民生委員、社会福祉協議会、警察、消防が連携して情報の共有化を図り、地域のひとり暮らし高齢者の見守りを行っています。

—SOSネットワーク事業—

徘徊等による行方不明者の捜索を佐倉市、八街市とともに2市1町SOSネットワーク連絡協議会を設立して、行政、警察、消防が一体となって地域の民間団体の協力のもとに、早期発見及び保護に取り組んでいます。



地域の特性を活かした活力あるまちづくり

活力にあふれるまち ～まちづくり基盤～

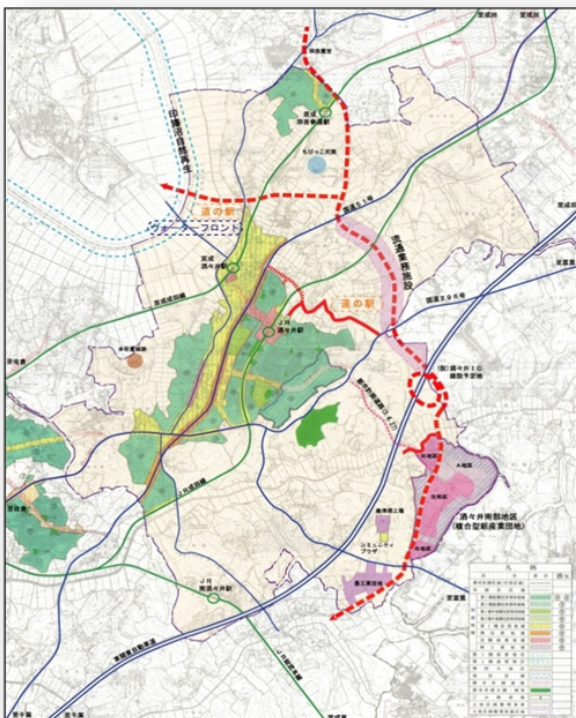
(仮)酒々井 IC 設置と 酒々井南部地区新産業団地

酒々井インターチェンジを核とした企業誘致による産業振興は、町の将来の自主財源の確保、安定財源の確保に不可欠であり、町のイメージアップにつながる確かな企業が多様な業種にわたり必要であると考えています。

このため、地域活性化インターチェンジ制度により開設される酒々井インターを活用し、南側の酒々井南部地区新産業団地については、大規模集客施設の立地に加え、医療・福祉、環境などの21世紀型新産業や先端技術分野の企業誘致を進め、職住近接型のコンパクトシティを創造するまちづくりを計画しています。また、インター北側の地域については開発規制の緩和による流通業務系の企業誘致を計画しています。

効果 ⇒

- ・産業の振興
- ・雇用の確保
- ・地域経済の活性化



活気にあふれるまち ～産業経済の活性化～

酒々井の地域ブランド

酒々井の米づくりは約二千年、下総台地から湧き出る水が育てた酒々井米は今でも変わることなく豊かに実っています。

平安時代には京都の貴族に送られていた酒々井米。桓武平氏の出身である印東氏が治め、鎌倉時代以降、武士の世となると千葉氏が領主となり、戦国時代には酒々井に本佐倉城を築き下総地方の首都となりました。この頃には豊かな湧水を背景にして「酒の井」伝説も広がりました。江戸時代、村々の米は佐倉城の米蔵に納められ、上岩橋では殿様への献上米と伝わっています。また、馬橋では清酒を造るようになりました。



ふるさとまつり（毎年11月開催）

中央公民館を会場に、町内で生産された農産物等の展示や即売をする農産物共進会や、同敷地内の特設会場では、野菜、植木などの各種即売会、模擬店やチャリティーバザーなど、家族みんなで楽しめる催し物がいっぱいです。



活力と活気にあふれるまち

～地域資源の活用～

「酒の井」伝説（町名の由来）

『昔むかし、印旛沼の近くの村に年老いた父親と孝行息子が住んでおった。父親はたいそう酒好きでな、親思いの息子は毎日一生懸命働いて父親に酒を買っていたんじゃ。ところがある日、どうしても酒を買う金がつくれずに、とぼとぼと歩いて家に帰ろうとしていた。その時、道端の井戸から何とも良い香りが「ぷうん」としてきた。井戸の水をくんでなめてみると、それは本物の酒だったんじゃ。さっそく帰って父親に飲ませると、「こりゃうまい酒だ。ありがたい、ありがたい」とたいそう喜んだ。息子はそれから毎日、毎日井戸から酒をくんで飲ませたんじゃ。ところがこの酒は、親子以外の人が飲むと、ただの水になってしまうんじゃな。「きっと、孝行息子の真心が天に通じたに違いない」とみんながほめたたえた。この酒の話しが広まり、村もいつか「酒々井」と呼ばれるようになったということじゃ。』



酒々井ちびっこ天国



京成宗吾参道駅の南側の美しい広陵地があり、「ちび天」の愛称で親しまれています。夏休

みになると日焼けした子どもたちが、駅からちびっこ天国への坂道を我先にと駆け上がる姿が見られます。これも、酒々井の夏の風物詩のひとつです。（来場者数 約8万人/年 H22）

しすい・ハーブガーデン 「ハーブの丘」

世界のハーブ約150種類を植栽したハーブガーデン。春から秋の花盛りの季節にたくさんの愛らしい花々が爽やかに香る風に揺れています。ガーデン内のショップでは苗や加工品の販売、ハーブティーのサービスもあります。



蔵元 飯沼本家

北総台地の中程、酒々井の地は県下きっての湖沼・印旛沼も近く、昔からの穀倉地帯。300年の歴史を誇る、馬橋の蔵元飯沼本家は、森に囲まれた静かな恵まれた環境の中にあります。



しすいの森パークゴルフ場



コースは、首都圏最大級、場内には農家と連携した農産物の直売を行っています。（来場者数 約4万人/年 H21）

朝市



毎週日曜日役場の駐車場で地元農家により市を開いています。

コンパクトシティならではの住みよい環境のまちづくり

住民との協働の取り組み ～環境美化活動～

環境対策



酒々井町をきれいにする会(婦人会主体と酒々井小4年生による印旛沼一斉清掃)

地域の環境対策として、年間を通じ定期的(年6回以上)に地域清掃を行う環境美化団体(自治会等)や婦人会、老人会、子供会等のボランティアグループによる清掃活動など、町として支援し住民と協働で取り組んでいます。

また、町が委嘱した不法投棄等監視員が日常的なパトロールの他、毎月第1水曜日に合同で町を巡回し、不法投棄や散乱ごみを回収するなど、町ぐるみで環境対策に取り組んでいます。



酒々井町不法投棄監視員による町内一斉パトロール

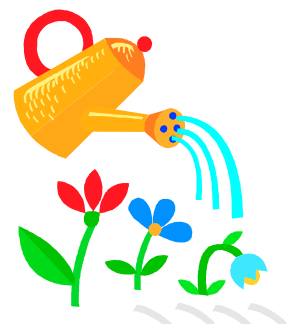
自治会や婦人会、有志によるボランティア団体などと「きれいなまちづくり」を推進するため、町と住民が協働で駅前や道路の交差点付近などに四季折々の草花を植栽し、環境美化活動に取り組んでいます。



ボランティアサポートプログラム(酒・和・花しすいによる国道51号線歩道の花植え)



婦人会の協力で四季を通じ花が咲く駅前周辺

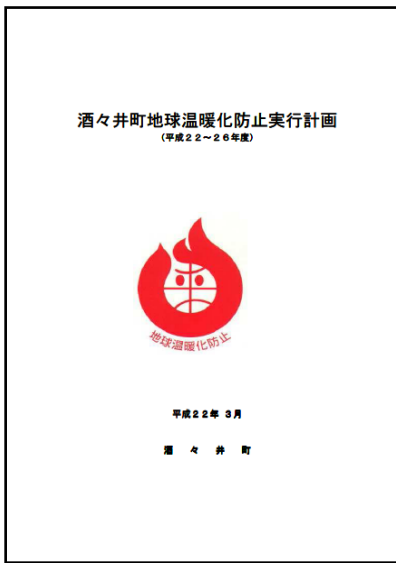


地球と家計にやさしい生活を
～地球温暖化防止～

地球温暖化対策

地球温暖化防止対策を推進するため、町自らをひとつの事業所として、地球温暖化防止実行計画を策定し、温室効果ガスの排出抑制等に努めています。

この計画では、平成20年度を基準年とし、平成26年度までの5か年で役場から排出される温室効果ガスを6.16%削減することを目標に、職員が一丸となって温暖化防止に取り組んでいます。



平成22年3月に策定された「酒々井町地球温暖化防止実行計画」

酒々井町環境家計簿(2010年度)記入方法
このページにのみ記入してください。
このページに一覧・年別使用量一覧は、このページの左ページに記入してください。

町ホームページに掲載されている地球のためにできることなかひとつ「酒々井町環境家計簿」(2010年度)
〜〜 各家庭からのCO2排出量が簡単に計算することができ、知ることができます。〜〜

きれいな印旛沼を再び
～水質浄化の推進～

水質浄化対策



高崎川上流で実施された「水草探検隊」に参加し、水草を観察する酒々井小の児童たち

水質浄化対策として、年2回、印旛沼に流入する町内3河川(高崎川、中川、江川)の水質検査を実施し、水質状況を定期的に監視しています。

また、町の下水道普及率は91%ですが、整備されていない区域で、高度処理型合併処理浄化槽を設置する場合の補助金交付制度を設け、水質改善に努めています。

その他、県と協力し、印旛沼浄化推進に関するイベントを実施するなど、きれいな印旛沼の再生を目指しています。



町最寄りの船着場から、印旛沼環境・体験フェア会場(佐倉ふるさと広場)へ、沼上から向かうEポート

安全で安心なまちづくり

安全で暮らしやすい生活を ～中川の治水対策と水循環系の再生～

中川の治水対策

中川流域の総合的な治水対策は、流域住民の参加協力を得ながら流域住民総ぐるみでの取り組みが必要であり、中川のみならず広く印旛沼流域水循環系再生の視点で進めています。



中川流域概要図

町内には湧き水が多く、印旛沼に流入する湧き水が少なくなれば水は汚れるため、この湧水量を増やすことにより水質を良くしていきます。個人の住宅や公共施設への雨水浸透枡等の設置により水を自然循環させる仕組みをつくるなど、総合的な治水対策を進めています。

印旛沼全景



水辺回廊と歴史拠点の再生による地域づくり

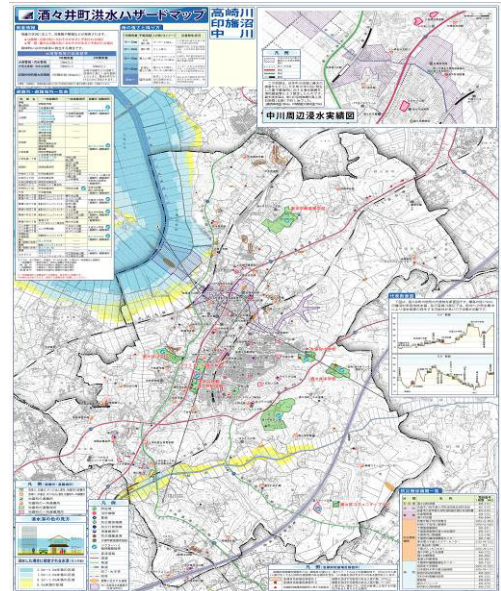
利根川と連携し災害時の緊急ネットワークの多様性の確保、平時の沿川の交流・連携・観光等の地域活性化構想を進めています。



洪水ハザードマップ

利根川、高崎川、印旛沼が現在の整備状況で、大雨によって増水し、氾濫した場合の浸水想定区域図（国土交通省及び千葉県が作成）及び中川の浸水実績に基づいて、浸水する範囲とその程度や洪水予報等の伝達方法、避難情報などを示した「洪水ハザードマップ」を作成し、町内全世帯に配布しています。

洪水時だけでなく地震等の災害時の避難場所・避難所の確認や情報収集などの防災マップとして活用できます。



避難所施設（小中学校）の耐震化

災害時の避難場所となる小中学校の耐震化は、平成22年度100%となります。



耐震化が図られた「酒々井小学校体育館」

安心して暮らせる生活を ～防犯体制～

地域自主組織等による防犯活動

防犯パトロールを通して犯罪抑止、非行防止など健全な地域社会の確立に寄与することを目的に、しすい防犯パトロール「ブルドックス」や各自治会等が防犯活動を展開しています。また、警備員により「安全・安心パトロール隊」を組織し、町内全域のパトロール活動を実施しています。

ブルドックスの活動



安全・安心パトロール隊

駅前交流センターの設置

駅前交流センターは、JR酒々井駅東口駅前広場にあります。

犯罪のない安全・安心なまちづくりを推進するため、地域住民と行政との連携により防犯意識の高揚を図り、地域住民による防犯活動等を推進することを目的に設置したもので、地域自主組織等の情報交換や日常の防犯活動・防犯パトロールの実施拠点として利用されています。



駅前交流センター

～消防・救急体制～

ドクターヘリ

ドクターヘリは、救急専用の医療機器を装備し医師・看護師等が搭乗して治療を行いながら、救命センターに短時間で搬送できる医療用ヘリコプターです。

ドクターヘリは要請から3分以内に出動が可能で、酒々井町へは約5分以内に到着できます。町内には臨時ヘリポートが7か所あります。



- ◆医師による適切な早期治療が可能
- ◆救命率向上・後遺障害軽減

消防団

町消防団は全13分団、173人、火災や災害時における地域住民の生命、身体、財産を守るために活躍しており、地域の安全確保に大きな役割を果たしています。また、出水時には水防団としての役割もあります。



消防操法演技

歴史と文化、そして 自然豊かな

酒々井に学び 酒々井に育つ

～「連携」と「交流」がキーワードです～

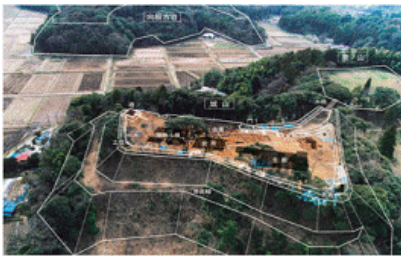
「連携」と「交流」を深め
地域の教育力の向上をめざします

酒々井町教育委員会は、町民誰もが、歴史と文化、そして自然豊かな“郷土・酒々井”に愛着と誇りを持ち、**しなやかに すこやかに いきいきと** 暮らすことのできるまちづくり・ひとづくりを基本理念にしています。

国史跡本佐倉城跡は 酒々井町のランドマークです！

本佐倉城は、戦国時代を通じて千葉氏の居城であり、下総の中心地として栄えました。

この千葉県を代表する中世城郭である本佐倉城跡は、平成10年に国史跡に指定され、現在、史跡整備事業を行っています。



国指定史跡 本佐倉城

「酒々井の教育」推進イメージキャラクター “勝っタネ！くん”

本佐倉城3代城主「千葉勝胤」がモデル。勝胤は武に優れ、和歌を好んだとされ、文武両道と勝利（勝っタネ！）をイメージして誕生しました。



史跡ウォーキングに 町内外から多数参加

毎年、本佐倉城跡を中心に周辺関連史跡・寺社を見学する史跡ウォーキングを、各種団体やボランティアと協働して行っています。

酒々井ふるさとガイドの会や郷土研究会がガイド役として大いに活躍しています。



ボランティアによるガイド

* ガイドを希望される方々は、「社会教育課」に申し込んでください。(無料) (043-496-1171)

子どもたちの健やかな成長のために
環境の整備充実を図ります

学校や家庭をはじめとして、地域社会全体で未来を担う子どもたちの**「生きる力」(確かな学力・豊かな心・健やかな体)**を育てていくことは、最も大切なことです。

「家庭学習の手引き」を作成しました

この「家庭学習の手引き」は、子どもたちが自分の力で家庭学習を進めることができるようになるために、保護者がどのように関わったらいいのかわかる、具体的なアドバイスや実践例などを掲載しています。

町内の小中学生の保護者に配付しています。



「学ぶ土曜日！ “青樹堂” ～わかる、がんばる学習活動～

10月から、子どもたちが進んで学習に取り組む場として、公民館を活用しての「学ぶ土曜日！ “青樹堂”～わかる、がんばる学習活動～」を開設します。本年度は、小学校3・4年生を対象に、教員経験のあるボランティアが、算数と国語を中心に、子どもたちの学習の支援をします。

青樹堂とは、幕末から明治にかけて、酒々井町で開設されていた寺子屋・私塾の名前です。

学校図書館アシスタントが活躍しています

子どもたちの読書活動の推進や図書館活用能力の向上を図るため、各小中学校に一人ずつ図書館アシスタントが配置されています。アシスタントは、学校図書館の環境を整えたり、読書活動の相談にのったり、「読み聞かせ」を行ったりしています。



読み聞かせの様子

誰もが生きがいを感じ 生涯学習に取り組める 環境づくりに努めます

ニーズに応じた学習機会を設け、生涯学習情報の提供に努めるとともに、誰もがいきがいを感じ、いきいきと活動できる生涯学習の推進に努めています。

町生涯学習キャッチフレーズ 学びふれあい 人がいきいき 町がいきいき

中央公民館では、しすいタウンカレッジ（主催事業の総称）を開設、2つのコースを実施しています。

- ・カレッジコース
(入学から卒業まで3年間)
- ・短期講座
(1回～8回で終了)



カレッジコースの講座

カレッジ卒業生が 新たなサークルを創設

カレッジコースは、平成14年度から2年制の短期大学として開設され、平成19年度から3年制に改編されました。

このカレッジの卒業生により、絵手紙、英会話、ハワイアンダンス、料理、コーラスなど20を超える新たなサークルが誕生し、公民館を中心に活動を広げています。

参加者主体の運営委員会を組織し 生涯学習フェスティバルを実施しています

日頃の学習活動の成果を発表するとともに、芸術や文化に対する関心を高め、生涯学習の理解を広げるため、毎年秋に、生涯学習フェスティバルを実施しています。参加者が主体の運営委員会を組織し、発表・展示・体験等の内容の充実を図っています。

地域で子どもたちの健全育成を図っています



たこあげ大会

子ども会育成連絡協議会や青少年相談員連絡協議会などと連携し、ふれあい球技大会、映画会、親子たこづくり教室・たこあげ大会など、いろいろな体験活動を通して、子どもたちの健全育成を図っています。

スポーツと文化活動を通じて 心と体の健康づくり・地域文化の創造を図ります

町民の健康増進、体力向上を目的に、いつでも・どこでも・誰でも楽しめる、健康づくりができる生涯スポーツを推進しています。

ゆめ半島千葉国体・障害者スポーツ大会が 開催されます

今年度は、37年ぶりに千葉県で国民体育大会が開催され、同時に第10回国障害者スポーツ大会も、千葉県が会場となります。



ゆめ半島 千葉国体+千葉大会
2010

酒々井町では、10月2日（土）に、しすいの森パークゴルフ場において、ゆめ半島千葉国体のデモンストレーションとしてのスポーツ行事「パークゴルフ酒々井大会」を開催します。多くの皆さんに、この「デモスポ行事」に参加していただき、感動を共有していただければと考えています。



親子パークゴルフ大会

炬火に命名

「酒々井ゆめハーモニーの火」に決定！

8月、ゆめ半島千葉国体の炬火の採火式を行いました。マイギリで火をおこし、点火された火は、総合開会式で集火され、「国体の火」となります。また、採火式とともに炬火の命名式が行われ、応募作品の中から「酒々井ゆめハーモニーの火」が選ばれました。



炬火の採火

「おもてなしの花」が準備されました

県下各地で「花いっぱい運動」に取り組んでいますが、酒々井町でも、コスモス、ペチュニアなどの「おもてなしの花」に加え、ローズマリーなどのハーブをプランターに移植し、公共施設やパークゴルフ場等に設置しました。



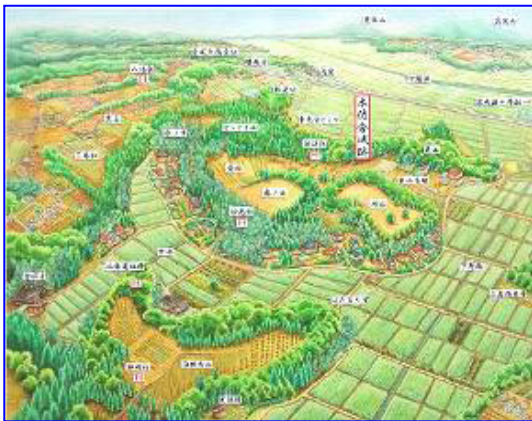
時の玉手箱

● 印旛沼中央排水路
かつては水運で栄えました。



● 酒の井の碑

酒々井山円福院神宮寺
酒々井の名はこの寺に「酒の井」があったことに因み呼ばれるようになったと伝わります。



● 築山
彼方に筑波山や男体山を眺望できます。



● 麻賀多神社 山車人形

幕末の名工、三代目 仲秀英作人形、装束ともオリジナル二年に一度、秋の例祭に組み立て展示されます。



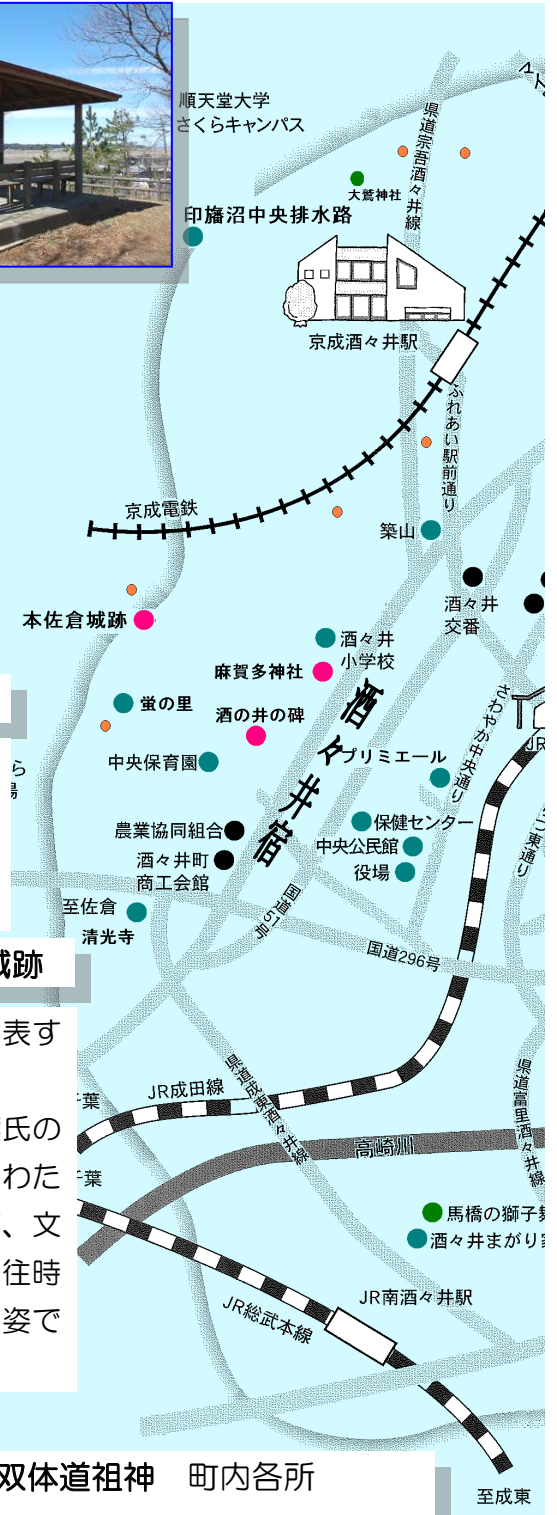
● 国史跡 本佐倉城跡

関東の戦国時代を代表する大城郭。
房総最大の大名千葉氏の居城として百年間にわたり下総の政治、軍事、文化の中心地でした。往時の城郭がほぼ完全な姿で残ります。

● 双体道祖神 町内各所



千葉県で6か所・8組の双体道祖神が見られるのは酒々井町だけ、丸彫りが特長で古いものは江戸時代後期の像立です。仲睦まじい姿に心が和み、思わず微笑んでしまいます。



携帯電話観光案内 酒々井観光ナビ

201 本佐倉城跡

町内の各所・回線にこのQRコードが設置されています。是非ご利用ください。

<http://www.town.shizu.chiba.go.jp/mobile>
酒々井町 TEL 043-496-1171
協賛 酒々井ライオンズクラブ

酒々井観光ナビ
酒々井町を歩けば必ず出会う観光ナビ。携帯電話をかざせば説明と地図で散策をサポートします。

酒々井観光ナビトップページ



酒々井

● 長福寺 多聞天立像

阿弥陀坐像、持国天とともに平安末頃の作品(県指定文化財)長福寺建立と仏像の像立はこの地を支配していた桓武平氏たちの祈りが込められています。



● 上岩橋の獅子舞 (三社祭り)

江戸時代から伝わり、五穀豊穡の春祈禱として上岩橋の駒形・菊賀・大鷲の三神社と区長家を巡回します。舞の所作は伸びやで優雅さを帯びているのが特徴です。(四月第一日曜日)

● 飯積の大杉 伊豆神社

子育ての神様として祀られる神社のご神木、幹周り約5m、樹齢七・八百年と伝承されています。樹勢は衰えをみせていますが地域のランドマークとして地域の住民により大切に保護されています。



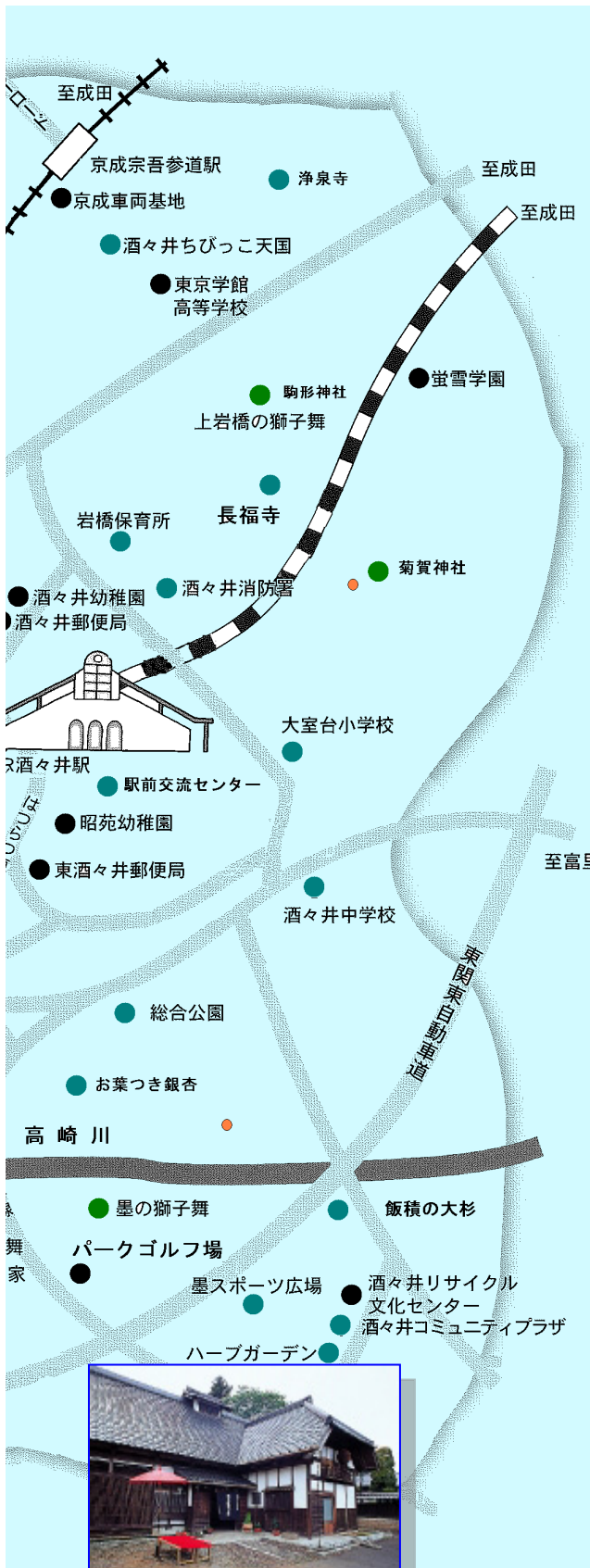
● 墨の獅子舞

墨六所神社の祇園祭りに奉納されます。享保19(1734)年から伝わるとされ舞の所作、お囃子は緩やかで、獅子舞が儀式であった頃の古式を伝えています。(県指定文化財、七月第三日曜日)



● 馬橋の獅子舞

馬橋香取神社の祇園祭りに奉納される。江戸時代後期から伝わるとされ、一時中断したが復活、大木に囲まれた中での演舞は幻想的で時代をさかのぼったような感覚になります。(七月第三土曜日)



● 酒々井まがり屋

馬橋の蔵元飯沼本家が運営するショップ。移設した古民家にギャラリーが併設されています。



水と緑の織りなす回廊 ようこそ 酒々井へ

新(しん)仏。門より堂迄一丁斗。内如左。

真言宗正(勝)藏院。不動別当也。四間四方ぐらの茅葺の堂。座像の不動新仏なり。左右こんから、せいたかある。三昧共に彩色。不動御長け七尺斗。脇立三尺余有。しこくの大不動也。堂の内、筒類敷(ちらす)くらいに一ぱいある也。前に護摩壇。此不動、先年江戸において刻節、甲州より武田信玄の像を同所にて刻む。其節御ぐし(首)を取違、信玄の頭を不動へ仕付、不動の頭を信玄の像へし付たるよし、信玄の髪の毛を植え、そのうへをねりたるよし也。こんせう(紺青)にて塗てあれども、そもそも怖き面相にて、左もありつべき事也。所の者申し伝る。それよりよく見ると、不動の顔とは余程に違たるよし、あたまはこふこふたちて柿色に塗てある。此不動、成田不動に人皆が信心する故、此不動へ参詣を引つけんが為に、堀田上野殿建立のよし。しかし参詣なし。門内左の方に鐘楼ある。よ程と念を入たる趣也。客殿の庭より松林が一面に見通しでき将門山(本佐倉城)なども見えてよき景地也。

出典 『古今佐倉真佐子』

宝暦三(一七五三)年頃、佐倉藩主稻葉正知の家臣で百五十石、勝手役を務めていた渡辺善右衛門が書き記した回顧録。

(一部、現代語に改変)



酒々井駅宿見取図

酒々井ふるさとガイドの会

として、そのまま佐倉城下町・佐倉六町の一つとして存続することとなった。

「馬と祭り」

酒々井宿には徳川幕府の馬牧の野馬会所があり、千葉氏の遺臣たちが牧士として南北八里の牧場と野馬数千匹の管理にあたった。

毎年夏に開催された馬の競売には江戸・上総・常陸など近国からも博労・仲買人が集まり、百匹余りの馬が取引されたと古記録にある。

かつて宿では七月に千葉氏時代の佐倉城の鎮守、大佐倉八幡神社の神輿が渡御し「ばか馬乗り」・「競い馬」が行なわれた。また八月には宿中の祭りであった祇園八坂社の神輿渡御・十月には鎮守麻賀多社の祭りである山車巡行と宿中で三つの祭りが執り行われ、近隣近郷の老若男女を集めていた。

明治維新後、佐倉藩廃藩、野馬牧廃止、鉄道敷設により宿中の賑わいは絶え、次第に祭りも執り行われずとなり、鄙の邑となった。

家並みは様変わりしたが地割り、地名や寺社などから今なお戦国時代終わりからの町が垣間見える。

酒々井宿の事

左右畠の内に一里塚ある。芝付、榎を植えてある、横町（佐倉）札の辻より一里の場。

此酒井（しゅすい）町にて左右町屋、一丁斗行て右の方町屋の内に牛頭天王社有。如左。

榎、松の林にて丹塗の鳥井、社は茅葺、当所の鎮守也。八月十二日祭礼。町はづれ右の方、御旅所有。是に御輿出る也。

町長さ五丁斗、町の通の真中に青竹にて垣根を結び、処々に口を明け、垣根の左右の道にて競馬

有る。初日は子ども色々なる母衣懸武者にして馬ほいがけむしや

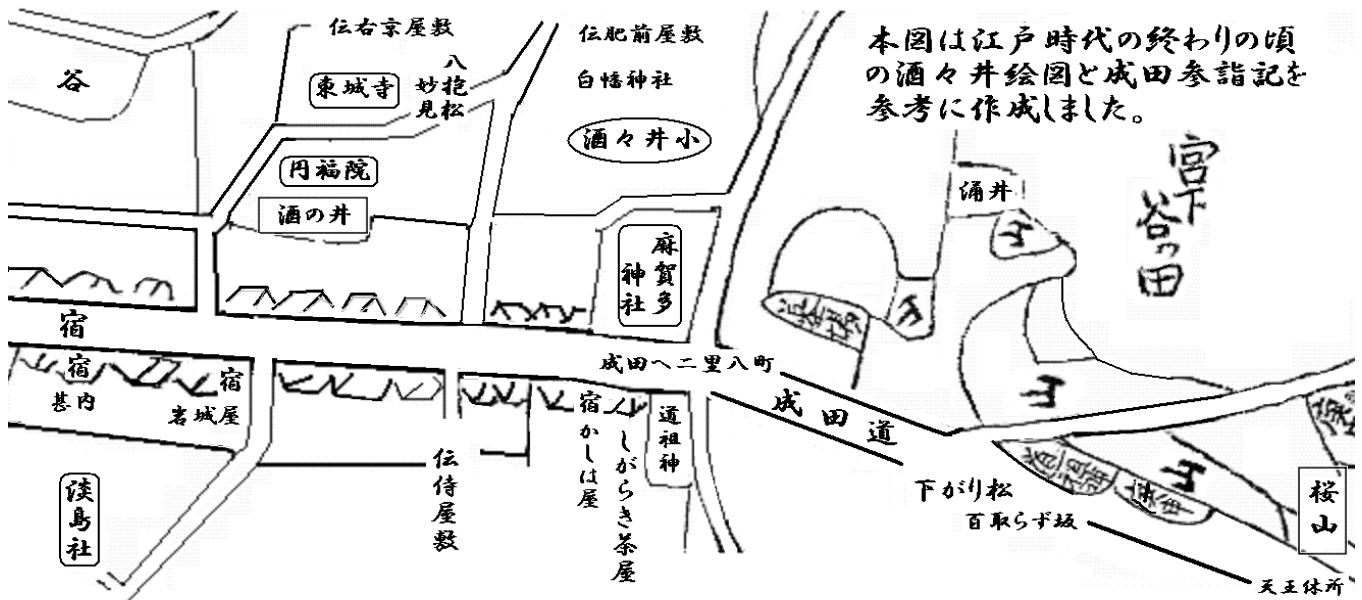
を乗る。その後ろから大人羽織にて其の影を追う也。このような競馬他国に又なし、牧士共ゆへ殊外丈夫に馬を乗る也、家中より見物多く行也。

当町は公儀の野駒御用承る所故、牧士と云は野駒取る節に山原を一さんに馬に乗りて野駒を追ふ役人也。よつて当宿にはなべて馬よく乗る事武士も叶わず、故に馬すぐれてよし。目を驚かす事也。

成田道ゆえ百文払えば鞍を置き馬を終日貸す。手綱は片方のみ、野駒也。不案内にして此馬には乗りがたし、性格が荒い。その心えあれば別事なし。

町真中程右の方に道あり、内野道也。末に記。少し先、左の方、左右桜並木の馬場ある。一丁斗。入口左木の玉垣有。馬場末に仁王門ある。仁王の長け六尺斗。二間に五間斗、中土間にて通也。

本図は江戸時代の終わりの頃の酒々井絵図と成田参詣記を参考に作成しました。



酒々井宿とは

江戸日本橋を立ち、千住宿から葛飾新宿の佐倉道（成田道）に道を取り、小岩の関所、市川、船橋を通り、下総堀田十一万石の佐倉城下へ向かうこと十四里十六丁。御城下の東に酒々井宿がある。

一里塚を越え宿場に入ると旅籠屋、茶屋、問屋、野馬会所が立ち並び、家並み五丁ほど、上宿、仲宿、下宿と町屋が続き、二里八町で成田山に至る。

上宿と仲宿境には市神である八坂神社、二丁先に仁王門を構える成田山の姉不動、勝蔵院があり、宿のはずれに鎮守麻賀多神社と地名由来の伝説を伝える「酒の井」がある。

銚子・上総芝山への分かれ道となる仲宿と横町の辻に高札場があったという。

「城下町酒々井」

往時、この地には戦国大名千葉氏が居城「佐倉城」があり城下町として栄えていた。天正十八年、関白豊臣秀吉により千葉氏が滅ぼされると、徳川家康により新たな町立てがなされ、城には家康五男武田信吉（のぶよし）、六男松平忠輝（ただてる）などを配置して佐倉藩が成立した。慶長十六（一六一一）年、藩主の土井利勝が一里ほど西にある千葉氏の鹿島城を造り直し、佐倉藩の城を移転した。城下町も新たに立てられたが、酒々井宿は由来あり



- 編集・発行 / 酒々井町 経営企画課
- 発行日 / 平成 22 年 9 月

〒285-8510 千葉県印旛郡酒々井町中央台 4-11
TEL 043-496-1171
ホームページ <http://www.town.shisui.chiba.jp/>

